

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 大和川らしい河川環境を目指して～自然再生計画を更新～		
水系/河川名 : 大和川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面 1070	整備計画流量 : -m ³ /s	セグメント : 0
事業 : 環境整備	事業開始年度 平成18年度	
目標設定 : 0	段階 : 0	
課題・目的(主な) : 瀬・淵の保全・再生・創出、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出		
工法(主な) : その他		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮、その他		

背景・課題、目標設定

<背景>

昭和30年頃の大和川は、アユが奈良県まで遡魚捕りや水遊びをする子供達の姿がみられたが、これまでの河川改修により、自然の河岸や河床失われ、動植物の生息環境等も減少している。流域の地域開発が進み、人口の増加と下水道の遅れによる水質の急激な悪化や外来生物のなど、河川的环境も大きく変化した。



この状況を改善すべく実施された水環境改善に関する事業により、水質は、環境基準を満足する状況まで改善。アユが自然遡上するまでの環境が整ってきており、試行的にした各種整備も、魚種の増加などにより効果確認。大和川全体に取り組を広げるため、自然再生計画を見直すこと



<課題>

■水質は環境基準を達成するまで改善しているが、「遊べる大和川」「生きものによさしい大和川」「地域で育む大の目標像に向け取り組む。

■自然環境については、昭和期の河道の直線化や護岸整備瀬・淵や水際植生が4割以上減少し、水際に形成されるワンドも7割以上減少したことから、引き続き、生きものを育む生息・生育・繁殖環境の保全・再生が必要である。

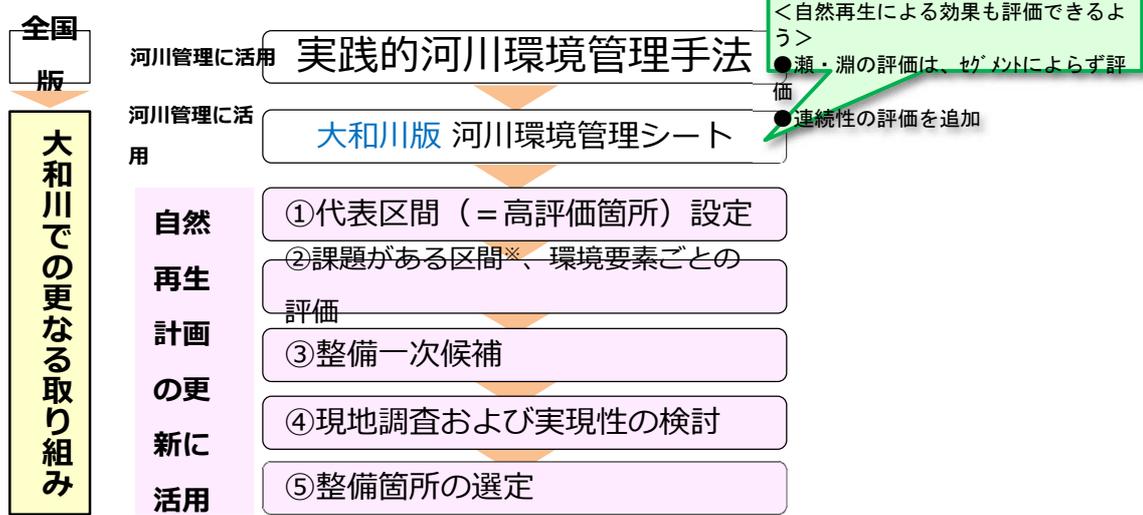
<目標>

■具体的には、実践的河川環境管理から抽出された課題である、水際植生やワンドの貧弱さに対応するため、短期的施策で得た知見・再生技術を活かし、現地にあった環境改善を全川に展開する。

取り組み内容・対策例 (1/2)

- H31.3に、河川環境を定量的かつ俯瞰的に評価する手法である「実践的河川環境管理手法」が公表。
- 大和川でも同手法を改良して適用し、500m区間単位での、環境課題を抽出。
- ピッチ毎の評価値をもとに候補を選定 → 現地確認や実現性等を考慮し選定

『大和川版』への改良
 ●区間間隔を、500mピッチに細分化
 <自然再生による効果も評価できるよう>
 ●瀬・淵の評価は、セグメントによらず評価
 ●連続性の評価を追加



※「課題がある区間」とは、代表区間より評価値が低い区間

実践的河川環境管理手法を用いた大和川自然再生計画の更新手順

